

メンデルスゾーン：劇付随音楽「夏の夜の夢」作品61 歌詞対訳

— Ein Sommernachtstraum —

Nr.3 Lied mit Chor

<1.Elfe>

Bunte Schlangen, zweigezüngt!

多彩・雑多な 蛇たち Zweig(枝分かれ) Zunge(舌)

Igel, Molche, fort von hier!

針鼠(複) イモリ(複) =weg(去って) ここから

Dass ihr euren Gift nicht bringt

(目的) お前達が お前達の 毒毒を ~ない もたらす

In der Königin Revier!

~の中に 女王の 縄張り

Fort von hier!

<1,2.Elfe & Chor der Elfen>

Nachtigall mit Melodei

夜鶯(単数)よ (with) 旋律

Sing in unser Eiapoepi,

歌え(命単) 4格 我らに 子守歌を

Eiapoepia, Eiapoepi!

1.Elfeは「Eiapoepi」のみだが、2.Elfeと合唱は「Eiapoepia-popeia-popeia-popei」と歌う

dass kein Spruch,

(目的) どんな~ない 格言・箴言、呪文

kein Zauberfluch

どんな~ない 魔法の呪い

der holden Herrin schädlich sei.

(女3格) 優美な 女主人に 有害な である(3単・接続法)

Nun gute Nacht mit Eiapoepi.

今や お休みなさい ~とともに 子守歌

<2.Elfe>

Schwarze Käfer, uns umgibt

黒い 甲虫たち(単複) 我らを(4格) 取り囲む(umgeben)

nicht mit Summen, macht euch fort!

~するな ブンブンという羽音で ~させる 我らを 離れた

Spinnen, die ihr künstlich webt,

蜘蛛たち (関代) お前達は 技巧的に weben(織る、編む)

webt an einem andern Ort!

編め ~で 別の 所

第3曲 歌と合唱

<第一の妖精>

舌が二股に分かれた、まだら模様の蛇たちよ！

zweigezüngt(英原詩ではwith double tongue) bunte(英原詩spotted)

ハリネズミやイモリたちも、ここから立ち去れ！

お前たちの毒毒が

女王様の周囲にもたらされないように！

ここから立ち去れ！

<第一・第二の妖精&妖精たちの合唱>

ナイチンゲールよ、お前の調べで

私たちに子守歌を歌ってくれ、

独和辞典では「子守歌」は「Eiapoepia」、覆かしつける間投詞も「Eiapoepia」

ねんねんころりよ、おころりよ。

どんな呪文も

Spruch(一定の思想内容を簡潔に述べた言葉)

どんな魔法の呪いも

Fluch(罵り、冒瀆、呪い)

優美な女王様の害とならないように。

それではお休みなさい、子守歌とともに。

<第二の妖精>

黒いカブトムシたちよ、我らのまわりで

ブンブンと飛び回るな！ 我らから離れよ！

summen(ブンブンと羽音を鳴らす)

蜘蛛たちよ、お前たちは巧みに網目を編むが、

巣作りは別のところでやってくれ！

<1&2.Elfe>

Macht euch fort!

<1,2.Elfe & Chor der Elfen>

Nachtigall mit Melodei....

<1.Elfe>

Alles gut! Nun auf und fort!

全て 良し 今や 立って 去ろう

Einer halte Wache dort!

一人は 保持する 見張り そこで

Finale

<Chor der Elfen>

Bei des Feuers mattem Flimmern

～の傍らで(3格) 炎の(2格) 弱々しい(3格) きらめき(3格)

Geister, Elfen, stellt euch ein!

霊たち 妖精たち ein|stellen(4格に)姿を現す

Tanzet in den bunten Zimmern

踊れ(命令複数) 色彩豊かな 部屋(複3格)

manchen leichten Ringelreihn!

数多くの 軽やかな 輪舞(男性名詞)

Singt nach seiner Lieder Weise,

歌え(命複数) ～の後に その(輪舞の) 歌 調べ

singet, hüpfet, lose, leise!

歌え 飛び跳ねよ 緩く 軽度の

<1.Elfe>

Wirbelt mir mit zarter Kunst

渦を巻く(命令複数) ～で 優しい 芸術(ここでは歌)

eine Not' auf jedes Wort;

一つの 音符(Note) ～の上に どの 言葉にも

Hand in Hand, mit Feengunst,

妖精たちの恩寵

singt und segnet diesen Ort!

歌え 祝福せよ この 場所

<Chor der Elfen>

Singt und segnet diesen Ort!

<1.Elfe>

Hand in Hand, mit Feengunst,
singt und segnet diesen Ort!

<第一・第二の妖精>

あっちへ行け!

<第一・第二の妖精&妖精たちの合唱>

ナイチンゲールよ、お前の調べで.... (繰り返し)

<第一の妖精>

全て良し! さあ、立ち去りましょう!

一人はそこで見張っていないさい!

終曲

<妖精たちの合唱>

弱々しい炎のきらめきの傍らで

精霊たちよ、妖精たちよ、我らに姿を現せ!

踊れ、広間で、色とりどりに着飾って

直訳は「色彩豊かな部屋の中で」=踊り手がホールの中で着飾っている様子

たくさんの輪になって、軽やかに舞え!

その歌の調べの後に続けて

英原詩では「And this ditty(俗謡), after me, Sing..」とあり

「この歌を、私の後に続けて、歌え」となる

歌え、飛び跳ねよ、心地よく、軽やかに!

lose, leiseの部分、英原詩では「trippingly(軽快に)」

<第一の妖精>

優しい歌を振りまこう、

直訳は「私の周りを優しい歌で渦を巻こう」

どの言葉にも音符をつけて。

手に手を取って、妖精たちの恩寵とともに、

Fee(妖精,複Feen)、Gunst(恩寵)=英詩「fairy grace」

歌え、そして祝福せよ、この館を!

英原詩では1行目に「house」とある。舞台となっている公爵の館のこと

<妖精たちの合唱>

歌え、そして祝福せよ、この館を!

<第一の妖精>

手に手を取って、妖精たちの恩寵とともに、
歌え、そして祝福せよ、この館を!

<Chor der Elfen>
Bei des Feuers mattem Flimmern....

<妖精たちの合唱>
弱々しい炎のきらめきの傍らで.... (繰り返し)

<Chor der Elfen>
Nun genug!
今や、さあ 十分だ (genug=genug)

<妖精たちの合唱>
さあ、もう良い頃合いだ！

Fort im Sprung!
去れ 飛躍

飛んで行け！ 館の隅々まで浄めてまわるのだ！
3組の夫婦に永遠の愛情が、そして
その間に生まれる子供らに祝福があるように！

Treffst ihn in der Dämmerung!
会おう 汝ら 日暮れ・夜明けの薄明かり (ここでは夜明け)

夜明けまでに終わらせて、また落ち合おうぞ！
treffen (4格に「会おう」「落ち合う」)

対訳作成：山岸 健一

英語原詩 : ウィリアム・シェークスピア(William Shakespeare)
喜劇「夏の夜の夢」(A Midsummer Night's Dream)

ドイツ語訳詩 : アウグスト・ヴィルヘルム・フォン・シュレーゲル ただし、かなり意識している
(August Wilhelm von Schlegel, 1767-1845)

ドイツの文学者、シェークスピアの翻訳で知られる。
また、作曲家メンデルスゾーンの伯母ヴェロニカ (=ドロテア・シュレーゲル、女流作家) の
夫フリードリヒ・シュレーゲル(ロマン主義の思想家・文学者)の兄でもある。

